

2026年2月

「ビジョナリー」『クローズアップ』2月号のお届け

同時代でもまるで違う文体（?）

3月3日の中学入試セミナーの案内チラシに「安田研として最後の大規模セミナーになります」と記し、会場も、これまでずっとお借りしていた大妻中野さんから広い講堂のある山脇さんに変更した。そうしたこともあり、これまで案内していなかったところにも知らせた。

申し込みがあると事務局であるリンクさんから転送されてくるシステムになっている。頻繁にあるのでチェックしていなかったが、偶々開いたら、これまで参加したことがない学校。で、オツと思ひ注目。最初のお名前は知らない先生で、【お連れ様1人目】に、よく知っている先生の名が…。申し込みフォームには役職を記す欄があり、そこに「4月から校長」とあって、驚いた。

親しい先生の中に、その先生と仲が良い先生がいたので、「ビッグニュース！」とメールした。「安田先生！！ ええええええええ！！！！！！ それはすごい！！ 嬉しい！」と、即返信があった。

受験ではなく子育てをテーマに4ページほどの原稿を依頼された。これも最後の機会かと思ひ、いつもに増して気持ちを込めて書いた。タイトルは『わが子が巣立つVUCA時代に向けての子育て』。最後の小見出しを「得意淡然 失意泰然」とした。

人生、いい時もあれば、不運な時もあります。恵まれた状況がずっと続くものでもない。つらい時も挫折そうなき時も必ずあるもの。激動の時代だからこそ、浮き沈みはつきもの。だから常にドンと構えて生きていく、そんな姿勢をお子さんに伝えられたら、それこそが子どもの将来にいちばん役立つことではないでしょうか。

そんなことを、頭の片隅にでもいいですから置いて、子育てしていただければと願っています。

力を入れて書いたので、ときどきメールのやりとりをしているある学園の90歳の理事長に送った。「得意淡然、失意泰然」は、小職も座右の銘にしており、出展の菜根譚は座右の書です。先生が激動の時代に生きる子に伝える重要性を指摘され感銘しました。との返信をいただいた。

メール1つでも年代により、人により、文体（?）がまるで違う。それが面白いし、楽しい！